

2. OHPの特徴

Over Head Projector(OHP)とは、文字どおり頭上を越えて、スクリーンに投映する機器のことで、図2.1に示す構造になっています。ステージ上に置かれたトランスペアレンシー(TPとかトラペンと略していう)という透明なシートに描かれた文字や図がスクリーン上に拡大されて映ります。

この機器は、昭和28年ごろから普及しはじめましたが、今日では、次のような特長から、一斉授業や研究発表会でよく用いられます。

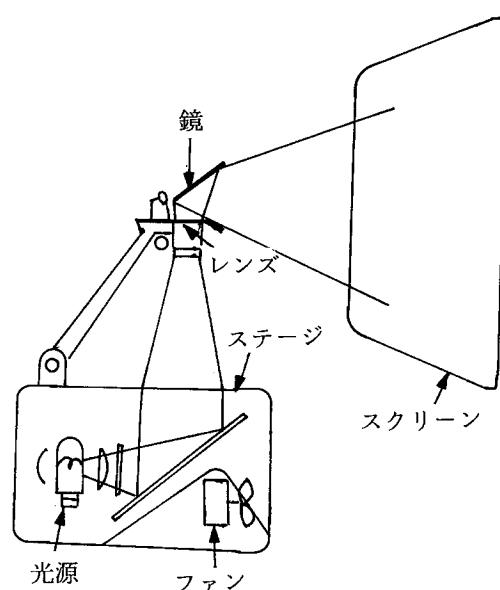


図 2.1 OHPの構造

- (1) 受講者と向い合って説明することが出来るので、その表情や行動などを見ながら授業を進めることができる。
- (2) スライドや映画のように室内に暗幕をひく必要がないので、スクリーンを見ながらノートを取ることができる。
- (3) (2)にも関連するが、適宜、掛図や黒板などを併用することができ、メディアの選択範囲が拡大する。
- (4) 近距離から拡大して投映でき、またスクリーン上の解像度がテレビに比べて殆ど問題点とならない。
- (5) 提示教材を事前に準備することができる。また黒板のように即興的にその場で書いていくこともできる。

- (6) 多色表示性に優れている。
- (7) 複数のトラペンを重ねて提示することができる。
- (8) チョークを用いないので、手や室内が清潔になる。
- (9) OHPのレンズ部分に拡大装置を付加すると、スライドを同じスクリーン上に投映することができる。